

## 学生とともにフィールドワークを行う楽しみ My Enjoyment in Fieldwork with Students

坂田寧代  
SAKATA Yasuyo

### 1. はじめに

著者は農村を歩き構造化を目指すフィールドワーカーとして、学生とともにフィールドワークを行っている。近年、学生が卒論・修論の内容を農業農村工学会誌に発表する機会に恵まれた<sup>1)~4)</sup>。今回、「いかにフィールドワークを通して農業農村工学分野（以下、『NN 分野』という）の課題を理解してもらうか」について報告する機会を得たため、わずかの経験をもとにではあるが考えを述べたい。

### 2. 卒論・修論の進め方

フィールドとの関わり方について、著者は住民とともに活性化策を考え実践するよりもむしろまず観察者であることを心がけている。今、農村地域で起きている事象を構造化し、それが NN 分野の制度にわずかでも示唆を与えることを目指している。

学生の卒論・修論の進め方もこうした著者の研究スタイルに沿ったものになる。現地に初めて足を踏み入れたときの学生の反応はさまざまだが、大なり小なり「驚き」を伴うことは共通している。この驚きをきっかけとして問題意識を深め、調査を設計し、論を構成する手助けをしたいと思っている。その際に気をつけているのは NN 分野を意識させすぎないことである。NN 分野の視点をもちながらも、学生がもつ純粋な興味・関心を広げ、自らのバックグラウンドをいかして問題を自分化し、論を構築してほしいと考えている。

### 3. 農村の全体性

もとより農村の生活は多岐に亘るため、NN 分野の制度だけでは捉えられないのは当然だが、これからは他分野の制度と融合することが大切になるのではないかと考えている。例えば、農村総合整備事業では集会施設などの生活環境施設や、農業集落排水施設などの生活環境基盤の整備が対象となる。ただ、子どもの数が少なくなっている中では子どもの環境改善も看過できない。農林業を土台にした農村の持続性を考えるのであれば、子どもの集まる場の整備<sup>1)</sup>を農村総合整備事業制度に入れ込むことも一つの案ではないかと思われる。

また、高齢者が中心となって伝統野菜を栽培し、子どもと交流するような活動は、経済規模で考えれば決して大きなものではない。しかし高齢者の生きがいとなり<sup>2),3)</sup>、子どもに次代の地域を担う自覚を促すものである。そのため、高齢者の生産グループの事務作業を代行する人的支援や活動費の助成が NN 分野の制度に取り入れられれば、新たな展開につながるのではないだろうか。

#### 4. 人材育成に対する考え

これらの提案は、子どもに興味・関心が高い学生との二人三脚で得られたものであり、NN 分野に一定期間身を置く著者独りの中からは生まれなかったと思う。学生を指導しているつもりでも実はこちらが教えられていることが多い。また、多様性を許容する度量を試されているようにも思う。

NN 分野へのさらなる理解や人材確保もこれと同じことが言えるのではないだろうか。NN 分野の人材確保を急ぐあまり、NN 分野への就職を強く勧めることは一部の学生の不興を買い、将来の相互理解と融合のチャンスを気づかぬうちに失ってしまう可能性がある。学生のバックグラウンドや興味・関心をこちらが理解するよう努めたうえで新しい何かをともに生み出そうとする姿勢が NN 分野の人材確保においても回り道のようにみえて実は近道なのかもしれない。

#### 5. 発表の場としての農業農村工学会誌

そもそも卒論の成果を農業農村工学会誌に発表することに挑戦したのは、(一社)土地改良建設協会の国営事業地区等フィールド調査学生支援事業を平成 29 年度に受け、その成果報告として学会誌または論文集に投稿すること、ならびに、同協会の会誌「土地改良」に概要を掲載することが義務づけられていたためである。受動的なものとはいえ、これらの発表を目指して研究に取り組んだ学生たちの姿勢は真剣そのものであり、自らの研究が社会とつながっていることを意識する良い機会になったと思う。学会誌に発表することは研究を始めて間もない 4 年生にとってハードルが高いが、チャレンジ自体に意義があると考えている。

#### 6. おわりに

学会誌第 85 巻第 5 号の小特集「多彩な農業農村工学の魅力の発信」で学生や中堅若手の技術者・研究者から報告されているように、NN 分野の魅力は広く深い<sup>5)</sup>。学生のバックグラウンドを見定めながら伴走し NN 分野の魅力をともに発見することや、学生が成果を発表する場を用意することが NN 分野に身を置く者にできることのひとつのように思われる。

#### 引用文献

- 1) 山口佳奈子, 坂田寧代 (2017) : 児童クラブと子ども教室に関する長岡市山古志地区の取組み, 農業農村工学会誌, 85(8), 55-58.
- 2) 中山桃花, 坂田寧代 (2018) : 中山間地域の高齢農家による伝統野菜栽培のための人的支援, 農業農村工学会誌, 86(2), 15-18.
- 3) 伊佐朋子, 坂田寧代 (2018) : 高齢農家による柏崎野菜「土垂芋」の栽培に対する行政支援, 農業農村工学会誌, 86(2), 19-22.
- 4) 友野 望, 坂田寧代 (2019 掲載予定) : 震災を契機とした地域交流団体における長期的活動要因, 農業農村工学会誌, 87(5), 頁未定.
- 5) 例えば, 辰野宇大 (2017) : 学生から見た農業農村工学の魅力, 農業農村工学会誌, 85(5), 3-6.